

# 令和元年度第4回 国道(国管理)の維持管理等に関する検討会

## 議 事 概 要

### 1. 日 時

令和2年5月29日(金) ※書面持ち回り開催

### 2. 検討委員

那須清吾座長、小浦久子委員、関本義秀委員、全邦釘委員、堤盛人委員、二村真理子委員、山口栄輝委員

### 3. 議 題

- (1) 中間とりまとめ(案)について
- (2) 今後のスケジュールについて

### 4. 議事概要

(議題1及び2)について事務局より説明を行い、委員より下記のとおりご意見を頂いた。

- ・ 現行の維持管理基準に関しては、今後も定期的にフォローアップを行っていく必要がある。
- ・ AI・ICT 等の新技術は、現時点で技術者の代替ではなく、技術者の補助的役割。そのような技術の導入にあたっては、限られた人員・予算の中での維持管理の効率化に役立つ補助的手段という位置づけを意識するべき。
- ・ AI・ICT 等新技術導入のトライアルを始め、対処療法的なやり方から、計画的な維持管理へ転換することにより長期化を図る取り組みと理解した。維持管理を考える上で、道路を空間として見るという視点が重要。
- ・ ロードマップを計画的に進捗させるためにも、システムを一部外向けに可視化するなど工夫が必要。
- ・ 使いたいときにすぐ使えるようなデータで、データプラットフォームの構築を行うべき。そういった体制・環境を整え活用することで、AI・ICT の活用が進み、将来的に BIM・CIM が相乗効果で生きてくる。国土交通プラットフォーム等でも考慮し取り組んでいるところかとは思いますが、重要性を再強調したい。
- ・ 政府全体として EBPM(Evidence-based Policy Making)の取り組みが求められている中、維持管理は EBPM になじみやすい分野であるため、今

後、EBPMを一層意識してフォローアップ等に取り組んで頂きたい。

- ・ 議論したことを、うまくまとめていただいた。維持管理についてはサービス目標を満足させつつ、メリハリを付けた効率的な維持管理を行うことが重要。
- ・ これまでの維持管理は、不具合を発見し直すという「対処療法的対応」。様々なデータをうまく活用出来るようになれば、予防保全的対応も可能になる。
- ・ 国交省でICT・AI等新技術の活用に取り組んでいる事を、今以上に情報発信して欲しい。土木がローテクではなくハイテクであるというメッセージは、土木のこれからを担う若い世代へのアピールにも効果的。